

日本人大学生が抱く外国人の行動に対する受容度尺度の作成と妥当性の検討

The Development and validation of Acceptance toward Foreigners Behavior Scale for Japanese university Student

224J2009 豊原 玲
Rei Toyohara

指導 池田 美樹 准教授
Thesis Supervisor: Miki Ikeda

国際学術研究科国際学術専攻心理学実践研究学位プログラム 臨床心理分野

Master of Arts Program in Clinical Psychology Master's Program in International Studies

International Graduate School of Advanced Studies J. F. Oberlin University

【問題と目的】本研究の背景には、日本社会における在留外国人の増加と多文化共生の重要性の高まりがある（法務省，2025；柳・松田，2011；野田・秋山，2016）。留学生、技能実習生、避難民など多様な背景をもつ外国人との接触が日常化する一方で、先行研究の多くは外国人側（ゲスト側）の適応や困難に焦点を当てており、日本人（ホスト側）が外国人の行動をどのように理解し、どの程度受容しているのかという視点は十分に扱われてこなかった。

また、偏見や社会的望ましさの影響により、自己報告式の差別態度尺度では実態が捉えにくいという課題がある（Igarashi & Nagayoshi, 2022；藤岡，2023）。そのため、行動レベルに焦点を当てた受容の測定が必要とされている。

本研究の目的は、日本人大学生が抱く外国人の行動に対する受容度を測定する「外国人の行動受容尺度（AFBS-JS）」を作成し、その妥当性を検討することであった。加えて、外国人の行動受容がどのような心理的要因と関連するのかを探索的に明らかにすることを目的とした。

【方法】本研究は二つの調査から構成された。調査1では、田中・藤原（1992）のモデルを参考に作成した項目について、大学生・大学院生を対象に調査を実施し、探索的因子分析を用いて尺度構造を検討した。調査2では、調査1で得られた因子構造をもとに改訂した尺度を用い、別の大学生サンプルに対して調査を行った。妥当性の検討として、社会的支配志向性や外国人忌避態度との関連を相関分析により検証した。

【結果と考察】調査1では、日本人が受容しにくいと考えられる外国人の行動を基盤として項目を作成し、探索的因子分析を行った結果、外国人の行動受容は「外顯的コミュニケーション行動」、「公共場面行動」、「文化的対人様式」の三つの側面から構成されることが示された。

調査2では、作成した尺度の妥当性を検証するため、社会的支配志向性や外国人への忌避態度との関連を検討した結果、社会的支配志向性が高いほど外国人の行動を受容しにくい傾向が示され、尺度が偏見や階層志向と関連する心理的特徴を反映していることが確認された。一方で、外国人への忌避態度とは明確な関連がみられず、顕在的な差別行動に近い内容を含む尺度では社会的望ましさの影響が強く働く可能性が示唆された。そのため、部分的な妥当性を有していることが明らかになった。

また、下位因子ごとの関連を検討したところ、「公共場面行動」が社会的支配志向性との有意な負の相関がみられなかった。かつ、一項目あたりの平均が、他の因子と比べて低いことが示された。そのため、「公共場面行動」は、偏見や差別に関わらず、普遍的に受容しがたい行動であると認識している可能性が示唆された。

「公共場面行動」が全体的に受容されにくかった点について、日本文化における協調性や場の調和を重視する価値観が影響していると考えられた。協調性や集団における調和を重視した、外国人へのコミュニケーションスキルの介入の一案として、アサーション・トレーニングが異文化間の協調的コミュニケーションを支える重要な介入となりうると思う。

これらのことから、日本人の受容傾向という文化的文脈を前提として、外国人側の異文化適応を支援する枠組みの必要性を示している。すなわち、ホスト側の価値観や行動規範を理解したうえで、外国人が適応しやすいコミュニケーション方略や行動選択を支援することが、より現実的かつ効果的な支援につながる可能性がある。また、外国人の行動受容の全体像を理論的枠組みとして体系化するためには、さらなる研究の蓄積が求められる。

参考文献

- 藤岡 慧 (2023) . 社会的望ましさを考慮した項目反応モデルによるパラメタ推定法の提案
心理学研究, *94*,300-317.
- 法務省 (2025) . 令和 7 年 6 月末現在における在留外国人数について Retrieved December
14, 2025, from https://www.moj.go.jp/isa/publications/press/13_00057.html
- Igarashi, A & Nagayoshi,K. (2022) . Norms to be prejudiced: List experiments on
attitudes towards immigrants in Japan. *Social Science Research*, *102*,102647.
<https://doi.org/10.1016/j.ssresearch.2021.102647>
- 野田 文隆・秋山 剛 (2016) . あなたにもできる外国人へのこころの支援 岩崎学術出版
社
- 田中 共子・藤原 武弘 (1992) . 在日留学生の対人行動上の困難 社会心理学研究, *7*, 92-101.
- 柳 佳慶・松田 英子 (2011) . 在日中国人留学生のストレスと異文化適応に関する研究 情報
と社会, *21*, 151-16.